



金屋町通信

発行元：
金屋町まちづくり協議会
発行責任者：般若陽子
編集責任者：般若慎一郎

鳳鳴橋は昭和59年に富山県の文化性導入推進事業として、鳳凰像設置などと共に大々的にデザイン化工事がなされました。親柱は、先人へ感謝し将来への発展を願い合掌する姿をデザインしたものです

金屋町開町400年記念フォーラム

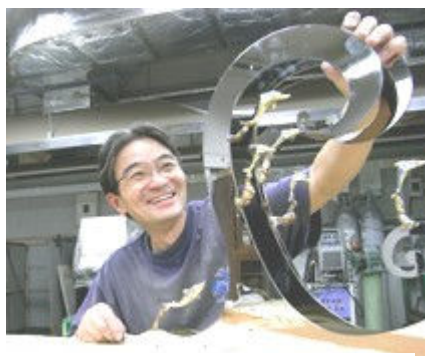
次世代に継ぐものづくりとまちづくり

9月11日(日) 13:30~16:00

ウィングウィング高岡4階大ホール

金屋町まちづくり協議会主催

東京芸大の宮田学長らを招いて行います。入場無料で予約なしで入れますので、お誘いあわせて多数ご来場ください。



作品作りをする宮田学長

開町400年記念展

金屋町のおやじ達

9月4日~18日

鋳物資料館第3展示室

入場無料



金屋町にゆかりの3人のおやじ達、新保昭一、竹平政太郎、飛見丈繁の業績をパネルで紹介いたします。入場無料ですので、是非ご覧ください。
なおその後金屋町楽市をはさんで、10月には飛

見丈繁さん、11月には新保昭一さんをそれぞれ単独で、より詳しく展示する予定にしています。

瑞龍寺は長崎と深い縁があった

8月7日、瑞龍寺の大茶堂において千保川を語る会が主催し、長崎史談会会長の原田博二さんを招いて「隠元禅師(いんげんぜんじ)と瑞龍寺」と題する講演会がありました。

仏教に黄檗宗(おうばくしゅう)という宗派があり、要請を受けて中国から長崎へ渡来し日本に住み着いた隠元禅師が日本に黄檗宗を伝え広めた。



瑞龍寺にある扁額「高岡山」「大雄殿」「瑞龍寺」はその隠元禅師によって、1656年に書かれたものだそうです。また、1659年に長崎の鋳物師 津村道助を呼んで唐風の梵鐘を作らせ、瑞龍寺に設置したそうです。その梵鐘は明治初期に高岡鋳物師が改鋳し、今はありません。

黄檗宗は禅宗の一派であるが、4代将軍家綱、5代将軍綱吉が帰依し爆発的に発展したそうで、加賀藩3代藩主前田利常も傾倒したようです。現在

は曹洞宗の瑞龍寺が、一時は黄檗宗になりそうな勢いであつたらしい。そんなことから瑞龍寺は長崎と深い縁があつたというわけです。

なおついでの話ですが、横田横町の岡本清衛門家に「無尽蔵」と書かれた隠元禅師の書が伝わっており、当日お披露目されました。昔瑞龍寺の山門を修理した時に岡本さんのご先祖が多額の寄付をしたことのお礼に貰つたと岡本家で言い伝えられているようですが、寺の記録では書でなく屏風を贈つたことになっており、真実は定かでないようです。

市長と語ろう

ふれあいトーク

棚田義宏

7月25日(月)、金屋町公民館において「歴史・文化資源を活かすまちづくり」をテーマとした高橋市長との



金屋町で高橋市長

“ふれあいトーク”が開催されましたが、まちづくり団体として、金屋町まちづくり協議会、寺のある町連絡協議会(八丁道など)、土蔵造りのある山町筋まちづくり協議会、吉久の伝統的町並みを考える会、福岡くらしっく街道の会、勝興寺まちづくり協議会の6団体の代表者が参加しました。

市側より「歴史都市」認定を受けて、維持及び向上すべき高岡の歴史的風致と重点区域の説明があり、この中で「金屋町キュポラ工場跡整備事業」案として旧富田家キュポラの復元整備と、町並み保存の一環として住民駐車場の整備などの説明がありました。

意見交換で、観光客からよく道順を聞かれるが道案内(標識など)を拡充してほしいとの意見に対して、市長は、歩いていて楽しく自然と目的地に

至る道づくりが望ましいと述べました。

また般若陽子さんが発言し、金屋町に観光バスがよく来るがバスの駐車する場所がないため路上駐車になり、結果的に滞在時間が短くならざるを得ない現状を訴え、駐車場の整備を求めました。これに対して市長から、山町筋と金屋町をセットでふさわしい位置を考えたい、良い情報があれば聞かせてほしいと答弁がありました。

その他、空き家対策や観光地でのお食事処の拡充などの意見交換がされました。

金屋町開町400年記念
シリーズ
金屋町と高岡鑄物の歴史

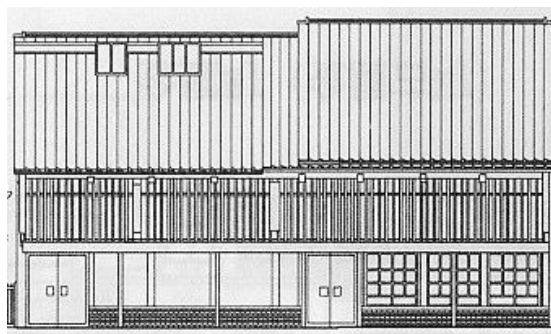
⑫般若と盤若

「高岡銅器史」

という高岡銅

器協同組合が昭和63年に発行した分厚い本がありますが、その中に般若覚兵衛と盤若覚兵衛という記述がありミスプリントかと思つたのですが、実はそれで正しいということが分かりました。盤若覚兵衛の孫で画家の盤若一郎のことを詳しく知りたいと思い、一郎の長女Tさんと面談したのですが、Tさんはもっと詳しいことが分からないかと、大阪に在住する一郎の弟(96歳)に電話をしてくれ、次のようなことを聞き出してくれました。

覚兵衛は金屋町のルーツ7人衆の般若の11代



である。般若を皿に載せたのは、覚兵衛の長男栄一郎

であつたらしい。その動機は、金屋に般若姓が増えたことから、覚兵衛家が本家筋であることを示すための差別化であつた。したがって若い頃は般若であつたのが、ある時を境に盤若になった。

ちなみに盤若覚兵衛家は栄一郎の代に資産運用に失敗し、当時番頭だつた山田さんが引き継いで、現在は山田博康家となっています。